

生き物の好きな子どもたち

子どもたちから毎日、「カブトムシの幼虫を飼っています」「カマキリの赤ちゃんがいたよ」「こっちの手にいるのはダンゴムシ、こっちはワラジムシ」と生き物の話題がつきません。グラウンドに面した窓ガラスに今年は、カゲロウがたくさん。それを見て「エビかと思った」ですって。似ていますね。カメムシも発生中。ササの葉でつついて臭腺から出させた油状のシミを見せると、遠巻きにしています。全員がマスク姿なので、残念ながら独特の悪臭は感じなかったようですが。



遊びにきたカゲロウ

「ムシが怖い」という子どももちろん、います。そのような子どもでも、「小さいダンゴムシなら大丈夫かも」などと、友だちの楽しそうな様子を見ることは嫌ではないようです。決して無理することはありません。好き嫌いがあるのは自然なことです。そして、友だちとのかかわりのなかで、苦手なことにチャレンジしていくのも素敵なことです。

タピオカって何からできているの？

7月9日(木)、農大稲花小の給食のデザートはタピオカでした。タピオカの原料は、キャッサバという熱帯のイモから取るデンプンです。タピオカもブームとなっていました。キャッサバイモを知っている人は少ないのではないのでしょうか。



7月9日(木)の給食

インドネシアやカンボジアに調査に行ったとき、農家で蒸かしたキャッサバイモをご馳走になったことがあります。ジャガイモよりあっさりした食感でした。また、野菜として葉っぱを炒めて食べることもあります。ポテトチップスならぬキャッサバチップスも売られています。最近、キャッサバイモのデンプンからバイオエタノールが作られています。

低学年にはまだちょっと早いかもしれませんが、タピオカを食べながらも学べることはたくさんあるのです。何事にも興味関心を持つということも、学びの第一歩といえます。保護者の



キャッサバの収穫風景
[カンボジア]

皆様にも、子どもたちの興味関心の芽を、見守り育てていただきますようお願いいたします。



茹でたキャッサバ料理
[インドネシア]



茹でたキャッサバ(葉)料理
[インドネシア]

制服はきちんと

子どもたちの制服姿を見ると、小学校創立準備のために複数の会社をお願いして制服デザインのコンペを行ったことを思い出します。そのような経過を経て選ばれ、機能性とデザインの良さを両立させた制服は、農大稲花小の自慢の一つといえます。それだけに、子どもたちには毎朝、制服をきちんと着て登校してほしいものです。登校時に、制帽の向きはまっすぐになっているか、紐はきちんとかかっているか、シャツの裾は出ていないか、靴は汚れていないかなど、ご家庭でもご確認をお願いします。暑くなる時期はとくに、勉強や運動のしやすい快適なスタイルに髪の毛を整えておくことも大切です。制服に限らず、服装が乱れても平気な子どもにはなってほしくありません。身だしなみを大切にする感覚も、低学年のうちに養っておく必要があり、また、一生、役立つ習慣となるのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスの感染防止に努める毎日ですが、子どもたちとその未来を守るためにも、気を緩めることはできません。保護者の皆さまにも、ご家族そろって、感染防止策を十分にとっ
ていただきますよう、改めてお願い申し上げます。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子